

子宮癌の検査 について

日本臨床検査専門医会
石和久



■子宮とはどのような形をして、どこにあるのでしょうか？

子宮は洋ナシのような形をし、骨盤内に膀胱と直腸に挟まれてあります。厚い筋肉の壁でできた袋状の構造をし、妊娠していない時の大きさが縦約7cm・横約4cm・重さ約50gで、上3分の2の部分を子宮体部、膣につながっている下3分の1の部分を子宮頸部と呼びます。

■子宮癌にはどのようなものがあるのでしょうか？

子宮癌は、子宮に発生する悪性腫瘍のうち2つを総称したもので、子宮頸部すなわち子宮の入口を少し入ったところで発生する「子宮頸癌」、子宮内膜に発生する「子宮体癌」とに分けられます。これら2種類の癌は、同じ臓器に発生しながらも、発生原因、好発年齢、性質、また治療法、手術術式、抗癌剤、放射線療法への反応も大きく異なり、まったく違う癌です。また子宮頸癌による死亡率が減少する一方で、最近急激に増えているのが子宮体癌で、最近では比率がじわじわと増加しています。

■子宮頸癌の原因は何でしょうか？

原因がHPV (human papilloma virus: ヒトパピローマウイルス) というイボをつくるウイルスの感染であることが明らかになりました。HPVには100種類以上のタイプがあり、

癌化するものとしらないものに2分されます。癌化するハイリスクHPV感染により、正常から前癌状態(異形成)になるのに6ヶ月から数年。異形成から癌細胞になるのにも、数ヶ月から数年かかります。異形成は、段階的に軽度、中等度、高度と分類されますが、HPVに感染した異形成がすべて癌化するわけではありません。異形成が癌化する確率はせいぜい5~10%と推定されます。また癌化するにはほかに、喫煙あるいはストレスなどの因子があると考えられています。

■子宮頸癌は防げるのでしょうか？

子宮頸癌はワクチンを接種し、定期的に検診を行い、また前癌病変で治療すれば唯一防げる癌です。すなわち感染前に子宮頸癌の約70%の原因であるハイリスクHPVウイルスに対するワクチンを接種します。しかし、例えば性行為で感染しても定期的に癌検診を受けられれば、異形成でみつかれば、その後の管理により心配するような浸潤癌にはなりません。子宮頸癌検診には細胞診とHPV検査の2種類を行います。極論すると、子宮頸癌で死亡する女性はほとんどいなくなります。

■子宮体癌とはどのような癌でしょうか？

これは、赤ちゃんを育てる子宮の内側をおおう内膜に発生する癌で、子宮頸癌と異なり、中高年・未出産歴・肥満・糖尿病患者さんに多いもので、直接の原因は明らかではありません。症状として主に閉経後の不正性器出血であることが多く、内膜癌を検診で診断する有力な手段は子宮内膜細胞診あるいは超音波検査です。さらに疑われた場合は内膜の組織を採取し診断を確定します。

子宮癌とは？

